

こうざ えもんつうしん 平成26年5月25日
講左衛門通信 第22号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114

『今日は、「御内八海道供養碑奉賛会」会員の方から伺った貴重な話をすることになっておったのう。クニマッスン、身延町を知っておるかのおう・・・』

『知っているでまっすん。けれど、講左衛門さん、身延町といえば、現在では、過疎化が進み限界集落と言われるほどの所でまっすん。有名な産業があるわけではないから、若者の就職する所がなく、町を離れて余所に就職しているほどでまっすん。そんな身延町の方々からたくさん寄付をもらったなんて、どうゆうことでまっすん。』

『いい質問じゃ。さて、答えを話す前に、もう一つ質問じゃ。市川三郷町（旧市川大門町）はとて有名な産業があるんじゃが、知っておるかのおう。』

『「和紙」でまっすん。古くは奈良時代から、甲斐の和紙（市川大門手漉和紙）は有名でまっすん。和紙の原料になるのは・・・思い出せないでまっすん。』

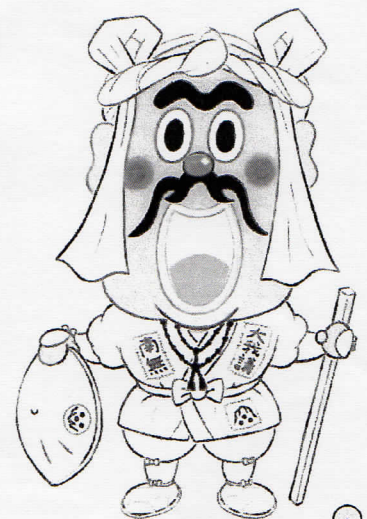
『本当に感心じゃ。和紙の原料は、楮（こうぞ）・三椏（みつまた）という植物じゃ。良質の和紙を作るには、楮・三椏は必要不可欠なものなんじゃよ。この植物を栽培していたのが、身延町の人達だったんじゃ。お婆さんがこのように言っておった。「私が生まれた時に植えた楮・三椏の手入れをしながら、祖母や母から、この楮・三椏が育つ頃には、お前の嫁入り支度ができるんだよ。と言われて育ってきたんです。」とな。奈良時代から「甲斐の和紙」は有名ブランドじゃ。身延町の人々は現金収入があったんじゃよ。現在では当たり前的事じゃが、この当時、年貢（税金）を石高（こくだか）と言った時代に、現金収入があったことは凄い事だったんじゃ。だから、忍野八海を再興する時に、お金を寄付することができたんじゃな。わしも、この話を聞くまでは、どうしたらこのような大金を寄付することができたのか、不思議に思っていたんじゃ。けれどもそれほど有名だった「甲斐の手漉和紙」は、洋紙におされて機械化が進み、現在は、手漉和紙の製造工場は1社のみと聞く。』

『山梨県に住んでいても、知らないことが多いでまっすん。「甲斐の手漉和紙」未来に伝統を継承してほしいでまっすん。』

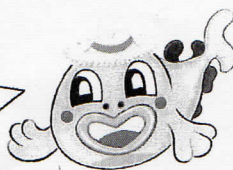
『「忍野八海ものがたり」の絵本が出版された時、本の取材に来た記者が言っておった。「忍草村の窮地を救った身延町の人のため、現在窮地にある身延町を忍野村の人々が救うという話があったら、取材させてください。」とな。わしらは、心掛けなければならないのう・・・』

『そうでまっすん。恩は返さなければいけないでまっすん。次回はどんな話をしてくれるでまっすん。』

『寛永寺から届いた書状に、「申渡制條之事」という7ヶ条の条文があるんじゃが、これにつて話をしようと思っておる。』



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん..



ふじのだいごうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定